

基礎情報（くらし分野）

足立区の現状

- ・犯罪の発生件数は減少傾向（14,487 件（H16）⇒ 7,561 件（H26））
刑法犯認知件数では23区内では6位（平成23年度は1位）
- ・要介護認定者数は増加傾向（11,531 人（H12）⇒ 29,339 人（H25）
※2.5 倍）
- ・生活保護世帯数及び保護率は増加傾向
（生活保護世帯数 7,500 世帯（S60）⇒ 18,724 世帯（H27 年 3 月））
（保護率 2.37%（S60）⇒ 3.74%（H27 年 3 月））

社会動向

- ・「健康寿命」の延伸は、高齢化に伴う
扶助費増を抑制するためにも重要。
- ・一人暮らし高齢者は増加傾向。4割以上が孤独死を身近に感じている。

現行基本構想に対する区の実組み等

- ・「孤立ゼロプロジェクト」による地域での見守り活動の推進。
- ・「糖尿病アクションプラン」による健康づくりの推進。
- ・ジェネリック医薬品の普及やレセプト点検による医療費の抑制。
- ・起業支援や足立ブランド認定による区内経済の活性化。
- ・「足立区版地域包括ケアシステム」の構築。

第1回～第3回審議会でのいただいた意見

【現状】

★くらし分野

- ①在宅医療が必要な場合、介護士やケアマネの相談はあっても往診医が見つからない。名簿をつくり協力を求めることができれば助かる。
- ②在宅医療・在宅介護が進めば、扶助費の抑制につながる。
- ③障がい者の方の人数も多いので、それに目を向けた施策展開が重要。
- ④人口・世帯は増えているのに、町会・自治会の加入率が低下している。また、名前だけ入っていて、実態として活動していない人も多い。
- ⑤人口は増えているのに、逆に事業所数や工業出荷額、農業生産額等が落ちている。
- ⑥自力で住まいを借りることができず、親元に住む若者が増えている。
- ⑦ビューティフルウィンドウズ運動による治安の向上は良いこと。
- ⑧生活保護の中には、高齢や病気などにより働きたいけど働けない人もいる。また、介護のために退職した人もいる。
- ⑨高層マンションなどではコミュニティが自然に発生しないため、仕掛けが必要。
- ⑩中学生から「思いやりが大事」「地域交流が大事」などの意見が出るのは、それだけ地域が危機に陥っているからではないか。

★4専門部会共通の内容

- ①高齢化や失業率等の日本全体や都の課題と足立区単独で対応可能な課題とを切り分けるべき。
- ②基本構想を考えるうえで、人口推計や30年先の国のデータ、区の考え等を知りたい。
- ③区民ニーズは、世論調査的なものだけでなく、審議会としてのデザインができた段階で区民に意見を聴いたらどうか。意見交換会（討論会）を検討してはどうか。
- ④いろいろな施策が成果を挙げている反面、もう少し力を入れてもよさそうなものもある。
- ⑤インフラ面に力を注いでも人間の心の教育がなければ、今後、さらにひどい状況になるのは必至。本来、家庭で代々受け継がれるべきこと。
- ⑥今回、無作為抽出かつ世代別に意見交換会を実施したのは良い。今後もいろいろな意見を反映していく仕組みを生かしてほしい。

【将来の課題】

★くらし分野

- ①高齢者の増加により自宅で介護する「老々介護」が増えると予想される。
- ②足立版地域包括ケアシステムの構築は喫緊の課題。
- ③生活保護受給者が多い等の貧困問題や、医療や介護等の扶助費増について検討する必要がある。
- ④生活保護対策として、就労支援や介護サポートの視点も必要。
- ⑤区民の健康寿命は全国より約2歳短いので、さらに強力な対策を講じる必要がある。
- ⑥若者が親元を離れ自立できるよう、住宅対策や雇用対策等が必要。
- ⑦一方で、親元にいる若者が介護の担い手になる可能性がある。
- ⑧高齢者と若い世代の関係づくり（交流や支えあい）が重要。
- ⑨元気な高齢者が働ける、活躍できる場が必要。
- ⑩町会・自治会は一つの柱ではあるが、今後はこれまでの家族・地域・企業などに代わる、新たなコミュニティや絆づくりの仕組みが必要。
- ⑪限られた税収の中で暮らしをよくするためには、ボランティアを増やす啓発や仕組みが必要。

★4専門部会共通の内容

- ①20歳代の転入増を分析のうえ、担税力のある若者を転入させる施策が重要。
- ②区の北東部の都営住宅では、低所得の外国人も多く、言葉の障害もあり学力水準の低下が著しい。国が移民を受け入れる時代を先取りし、住宅政策や学力向上の支援策を検討したい。
- ③ヒト・モノ・カネには限りがあるので優先順位をつけて計画を立てなければならない。
- ④基本構想は、区民に分かりやすいメッセージ、スローガンにして、伝わるようにすべき。
- ⑤人の力、人の良さを生かす足立区であって欲しい。
- ⑥成果を挙げた施策も、継続的な努力をしないと後戻りする。絶えず施策・事業を厳しく見直し、新たな視点・アイデアも取り入れ向上に努めてもらいたい。
- ⑦基本構想策定の目的は、「住んでみたい足立」を協働により築き、その将来像は「住んでよかった足立」をめざすことではないか。
- ⑧財政の見通しを踏まえ、どんな区づくりを進めていくのか、将来のシナリオについて数パターン示す必要がある。